

無意志的な自律移動を表す述補構造

— 枠付けパターンをめぐる —

島 村 典 子

〈提要〉

本文从类型学的角度对用于表现非自主自移事件的框架模式进行考察。汉语表现非自主自移事件的框架模式有两种：一种是[谓语动词(V) + 趋向补语(D)]所构成的VD型框架模式；另一种是[趋向动词(V_d) + 指示性趋向补语(D_d)]所构成的V_dD_d型框架模式。本文通过对实际语料的调查来证明了V_dD_d型是有标记框架模式，并从位移主体的语义特征以及句法环境的角度分析了V_dD_d型框架模式的使用特征。

0. はじめに

現代中国語において、無意志的な自律移動を表す述補構造には、[述語動詞(V) + 方向補語(D)]からなるVD型と、[方向動詞(V_d) + 直示方向補語(D_d)]からなるV_dD_d型¹⁾の枠付けパターンが存在するとされる(柯理思 2003, ラマール 2008)。

- (1) 主持会议的一个老师听到这里，泪水滚落下来。²⁾ (会議の司会をしていたある先生はここまで聞くと、涙をぼろぼろと流した。) (张炜《唯一的红军》) 【VD型】
- (2) “[…] 我就问自己：我这是在哪里？一语未了，酸了鼻子，泪就又下来了。” (「[…] 私は、どこにいるんだと自分に尋ねたが、言い終わると鼻がつんとして、涙がまた流れてきたんだ。)」 (王朔《痴人》) 【V_dD_d型】

しかし、両枠付けパターンが実際に使用される具体的な比率や使用状況についてはまだ十分な考察が行われていない。本稿では、両枠付けパターンが用いられる実際の比率を明らかにした上で、有標のV_dD_d型枠付けパターンが使用される際の状況を、移動主体の意味的特徴と構文的特徴から分析する。

1. 無意志的な自律移動とは

無意志的な自律移動とは、移動主体の無意志的かつ自律的な移動を指す。この種の移動の主体となるのは、典型的には以下の用例における“水滴”(雫)や“面包”(パン)といった非情物である。

- (3) 窗外的水滴更加大声地叭哒哒滴下来。(窓の外の水は一層大きな音を立ててポタポタと滴り落ちた。)(鲁彦周《天云山传奇》)
- (4) 面包一个接一个地滚过来。(パンが一つまた一つと転がってきた。)(孙少山《八百米深处》)

しかし、人間・動物といった有情物が移動主体となる場合であっても、これらの移動主体が「+生命」の意味特徴をもたない場合や、その移動が移動主体の意志によらない場合は、これを一律無意志的な自律移動と見なす。例えば、(5)は生命を失った有情物の移動、(6)は有情物の無意志的な移動を表すため、いずれも無意志的な自律移動に含まれる。

- (5) 7月10日，陈重申的尸体浮出水面，被几个在潭中洗澡的小孩发现，自行车也被打捞出来。(7月10日，陈重申的死体が水面に浮かび，淵で身体を洗っていた子どもたちに発見され，自転車も引き上げられた。)(《报刊精选》1994)
- (6) 牛牛说：“姐姐，俺家屋梁上的小燕子不知咋地从窝里掉下来，摔伤了。三梆子说你冇药水，你给小燕子抹抹行不？”(牛牛は言った。「姉ちゃん，おれの家の梁に住んでるツバメの子が巣から落ちて怪我をしたんだ。三梆子が姉ちゃんなら薬を持ってるって言ってたけど，ツバメに薬を塗ってくれるかな。」)(张海迪《轮椅上的梦》)

また、以下の用例は所謂「無標の受け身文」であり、ラマール 2008: 116 はこの種の文について、「xを前景化しない受動文の一種であるという見方が一般的である」(x = 動作主，筆者注)と述べている。(7)の受け身文においても、移動するのは“鲜花”(花束)のような非情物であるが、Vが言外に存在する使役者の動作行為を表し、当該の動作行為が使役力となって非情物の移動を引き起こしていると考えられるため、(7)における VD は自律的な移動を表していることにはならない。

- (7) 鲜花从四周看台纷纷扬扬地扔下来……(花束が周囲のスタンドからボンボンと投げ落とされた…) (王朔《痴人》)

本稿は、(7)の VD で表される移動イベントを、使役移動イベント (caused-motion event) と見なす。

更に注意したいのは、「客観的世界においてはいかなるイベントも無から自発的に発生するわけではなく、全てにその原因が存在するが、何らかの理由からこれらの原因が認知的にはプロファイルされない」(宋文輝 2006: 118) ということである。この点について宋文輝 2007: 43 は、「言語における使役イベントと物理的世界における使役イベントは完全に同等というわけではない。前者は人間の認知或いは解釈の結果であり、人間の主観性が含まれている。例えば、リング

が木から落ちるのは、物理学的に見れば地球の引力の作用によるものであり、使役イベントである。しかし、人間の認知においてはリング自身の重量が最も観察容易であるため、リングの落下を引き起こした最も顕著な要因であるとされる。地球の重力は観察され難く、プロファイルされないため、イベントは自律的なイベントとして概念化される」と指摘している。即ち、客観的世界では、無意志的な自律移動にもそれを引き起こす使役力が存在するが、当該移動イベントを言語化する際、VDのVはそのような使役力を捨象し、代わりに移動の様態や方向という側面に着目し表現しているのである。

以上の記述から、「無意志的な自律移動」は、移動主体の移動が無意志的であるという点で「意志的な自律移動³⁾」と異なり、自律的な移動として概念化されるという点で「使役移動」と区別される。また、無意志的な自律移動を特徴付ける無意志性は、“不自主地”（自分の意志ではなく）等の連用修飾語に、自律性は“自动”（ひとりでに・自発的に）といった連用修飾語によって表現されることがある。

- (8) 他答着，泪水 不自主地滴下来，他忙用手背擦去。（彼は答えながら、涙が自分の意志とは無関係に滴り落ちてくるのを慌てて手の甲で拭った。）（湛容《人到中年》）
- (9) 你的大衣在我的手中 自动滑下。（君のコートが僕の手から ひとりでに滑り落ちた。）（张贤亮《绿化树》）

2. 無意志的な自律移動の枠付けパターンに関する先行研究と問題点

ここでは、無意志的な自律移動の枠付けパターンに関する先行研究を概観し、問題点を指摘する。まず、移動イベントにおける枠付けパターンについて説明したい。

Talmyの一連の類型論的研究(Talmy 1975, 1985, 1991, 2000)は、移動イベント(Motion event)においてどのような意味要素(semantic elements)がどのような表層成分(surface elements)によって表現されるかという問題を分析し、諸言語において得られたタイプを比較している。Talmy 2000は、移動イベントの中核スキーマ(core schema)を形成する経路(Path)が主要動詞(main verb)によって表現されるか、それとも接辞や不変化詞等の付随要素(satellite)⁴⁾によって表されるかによって、世界の諸言語は大きく2つのタイプに分かれるとしている。前者は動詞枠付け言語(verb-framed languages, 以下V言語)と呼ばれ、日本語がこれにあたる。後者は付随要素枠付け言語(satellite-framed languages, 以下S言語)と呼ばれ、英語や中国語等が挙げられる。

Talmy 2000はこのように中国語をS言語に分類したが、これについて中国語学界では様々な反応があった。特に、現代中国語の方向補語は方向動詞から文法化したものであるものの、この方向補語を担ういくつかの形式が主要動詞として高頻度に用いられる(柯理思 2003: 5-6)という事実は、議論を活発にさせた要因であろう。例えば、(10)は意志的な自律移動を表すが、経路

概念が主要動詞である“出”や“回”に包入されているため、これはV言語の枠付けパターンとなる。

- (10) a. 他出去了。(彼は出ていった。/彼は出かけた。)
 b. 他回家了。(彼は家に帰った。)

一方、以下の(11)は様態を表す述語動詞が文の主要動詞となり、経路概念は付随要素である方向補語によって表されるため、S言語の枠付けパターンである。

- (11) a. 他走出去了。(彼は歩いて出ていった。)
 b. 他跑回家了。(彼は走って家に帰った。)

柯理思 2003 は上述のように、現代中国語にはS言語の枠付けパターンと、V言語の枠付けパターンが存在することに着目し、移動イベントを3つのタイプ（「使役移動 (agentive motion)」, 「有生の移動主体による移動」, 「無生の移動主体による移動」⁵⁾）に分類し、各移動イベントが言語化される際、どちらの枠付けパターンが使用されるかについて考察を行った。後のラマール 2008 は、枠付けパターンの選択を左右する要因はヴォイスであることを指摘している。即ち、所与の移動が外的な力による使役移動である場合は、S言語の枠付けパターンが選択され、自発的に生起する自律移動であれば、両枠付けパターンの使用が可能ということである。しかし同時に、「有生の移動主体による移動」のカテゴリー内部における枠付けパターンの選好は、ヴォイスによる制約が弱まり、一定程度まで文体と文の談話機能に左右されることも指摘している⁶⁾。このように、各イベント内における枠付けパターンの選択には、ヴォイスとはまた別の要因が存在することが示唆される。

このような経緯から、本稿は無意志的な自律移動の枠付けパターンの選択について考察を行う。柯理思 2003 の「無生の移動主体による移動」は、Talmy 2000 の nonagentive⁷⁾ に準拠しており、「一種の『自律』イベントに見えるが、移動主体の多くは非生命体（或いは自己制御能力のない生命体）である」と説明される⁸⁾（柯理思 2003: 6）。当該移動イベントの言語化にはVD型が多用され、S言語の枠付けパターンを用いる傾向にあることが指摘されている。また同時に、非生命体の中でも“柳絮（柳の実）、太陽（太陽）、風（風）”等、自ら移動することが可能であると見なされるものは方向動詞を用いることが可能であり、「無生の移動主体による移動」というカテゴリーにおいてもV_dD_d型の枠付けパターンが排斥されないことが指摘されている（同上: 7）⁹⁾。しかし、柯理思 2003 も指摘しているように、同論文では、当該移動イベントにおいて2つの枠付けパターンが用いられる具体的な比率や分布条件が明らかにされていない。柯理思 2003 を発展させたラマール 2008 でも、この問題点は解決されていない。以上の問題意識を踏まえて、次節ではVD型とV_dD_d型が実際に使用される比率を調査し、特に有標のV_dD_d型の使用状況とそ

の特徴を考察する。

3. 無意志的な自律移動における2つの枠付けパターンについて

3.1. VD型枠付けパターンと V_dD_d 型枠付けパターンの比率

VD型枠付けパターンと V_dD_d 型枠付けパターンの比率を考察するにあたり、まず使用したテキストや調査の手順を説明する。

調査には《北京大学汉语语言学研究中心现代汉语语料库》を用い、北京での居住歴が長い作家である王朔、刘心武、王小波のテキスト¹⁰⁾から“上、下、進、出、回、过、起¹¹⁾”を含む用例を検索した。その中から無意志的な自律移動を表す用例を抽出し、これらの用例でVD型が用いられているか、 V_dD_d 型が用いられているかを調査した。この結果を〔表1〕〔表2〕に示す。

〔表1〕

	上		下		進		出		回		过		起	
	VD	V_dD_d	VD	V_dD_d	VD	V_dD_d	VD	V_dD_d	VD	V_dD_d	VD	V_dD_d	VD	V_dD_d
王朔	8		31	12	17	3	55	24	3		20	1	23	3
刘心武	1	1	16	8	18		51	7	3		10	5	7	1
王小波	1		34	19	23	8	36	28	3		17		18	
計	10	1	81	39 ¹²⁾	58	11	142	59 ¹³⁾	9		47	6	48	4 ¹⁴⁾
総計	11		120		69		201		9		53		52	

〔表2〕

総計	VD型 (%)	V_dD_d 型 (%)
515例	395例 (約77%)	120例 (約23%)

〔表1〕から、いずれの方向動詞或いは方向補語であっても、無意志的な自律移動の言語化には、 V_dD_d 型より、VD型の枠付けパターンの方が圧倒的に多用されることがわかる。また〔表2〕の総計から、VD型が全用例の約77%を占め、 V_dD_d 型は約23%を占めるという数値が得られた。よって、無意志的な自律移動では、VD型が無標の枠付けパターンであり、 V_dD_d 型は有標の枠付けパターンであることがわかる。それでは、有標の V_dD_d 型はどのような状況で使用されるのであろうか。以下では、まず V_dD_d 型に生起する移動主体の意味的な特徴を考察する。

3.2. V_dD_d 型枠付けパターンと移動主体の意味特徴

第2節で既述したように、 V_dD_d 型は「意志的な自律移動」の言語化に多用される枠付けパターンであり、当該移動イベントを遂行することの可能な移動主体とは、典型的には人間・動物

といった有情物である。このような意志を有する有情物の移動であれば、 V_dD_d 型は比較的自由に用いられる（(10a), (10b)を参照）。

また、車や汽車といった乗り物も人間のコントロール下にあるため、乗り物が移動主体となるケースでも V_dD_d 型の使用は比較的内容である。

- (12) 8月5日这天下午，一辆小车无声无息进了村，将一张大红纸贴在一户人家院门上。（8月5日の午後，一台の車がひっそりと村に入り，ある家の庭の門に大きな赤い紙を貼った。）（杨晓光《从田埂走向奥林匹克》）
- (13) 说话之间，火车进了无锡站。（話している間に，列車は無錫駅に入った。）（周而复《上海的早晨》）

車や汽車といった乗り物は非情物であり，それ自身は意志をもたないが，その移動には多くの場合，人間による意志的な操縦が必要となる。王珏 2002: 116 は，“飞机（飛行機）、船只（船舶）、飞船（宇宙船）”等を「自由移動物体類」と名付け，その意味特徴を「一定程度，人の意志に基づいて自発的に運行される人工の物体」であるとする。このように，乗り物の移動には人の意志が最も投影され易く，自発的に移動を遂行する移動主体として捉えられる。またこの場合，願望を表す助動詞“想”を付加することも可能であることから，乗り物の移動には人間という操縦者の意志が投影されていると考えて問題なかろう。

- (14) 那辆车想进来，可是进不来。（あの車は入ってきたいようだが，入ってこれない。）

以上の考察から，一定の意志を有し，自発的に移動することのできる移動主体であれば， V_dD_d 型の使用が許容されるという傾向が予見されるが，他の移動主体ではどのような結果が得られるのであろうか。以下では， V_dD_d 型に生起する移動主体が有する意味特徴に着目しながら， V_dD_d 型の使用状況を分析していく。

3.2.1. 自然の力

V_dD_d 型の移動主体によく見られるのは，自然の力（natural force）である。自然の力には，“太阳（太陽）、月亮（月）、星星（星）、台风（台風）、风（風）、光（光）、烟（煙）”のようなものがある。

- (15) 最后一抹夕阳像是跟着她们从西门进来，水泥小马路像金色镜框映着上面来来往往的人、车。（落日前のかすかな夕日が彼女たちの後に続くように西門から入ってきた。コンクリートの小さな通りが金色の額縁のように，往来する人や車を映し出していた。）（王朔《看上去很美》）

- (16) 星星快出来了, 我能找着岸。(もうすぐ星が出てきたら, 岸を見つけられる。)(王小波《绿毛水怪》)
- (17) 台风过去之后阳光明媚。(台風が過ぎ去った後, 美しい晴れ間が広がった。)(余华《夏季台风》)
- (18) 我走进去时, 屋子里暗了一下, 因为是草顶土坯房, 大多数光从门口进来。(私が入っていくと, 部屋の中が一瞬暗くなった。茅葺きの屋根に煉瓦造りの家なので, ほとんどの光は戸口から入ってくる。)(王小波《黄金时代》)
- (19) 我点燃一支烟, 站在舷窗旁吸, 烟袅袅飘向舷窗口, 一出去就立刻刮飞了。(私はタバコに火をつけ, 船の小窓のそばに立って吸った。煙は小窓の方へ向かってゆらゆらと漂い, 小窓から出ていくとたちまち消散した。)(王朔《一半是火焰, 一半是海水》)

これらの移動主体では, 特別な文脈がなくとも V_dD_d 型を使用できる。

- (20) 星星出来了。(星が出てきた。)
- 台风过去了。(台風が過ぎ去った。)
- 风进来了。(風が入ってきた。)
- 最后一抹夕阳进来了。(落日前のかすかな夕日が入ってきた。)
- 大多数光进来了。(たくさんの光が入ってきた。)
- 烟出去了。(煙が出ていった。)

自然の力は, これを動作主 (agent) と見なすか否かという問題において異なる見解がある。例えば, Fillmore 1968: 24 は, 「Agentive (A), the case of the typically animate perceived instigator of the action identified by the verb.」(動作主は, 典型的には動詞によって定められる動作によって観察される生命体である。)というように, 動作主は生命体であると規定している¹⁵⁾。中国語でも, 鲁川 2001: 112 は, 「“施事”是发出可控行动的主体或可控心理状态及思维活动的有意识的主体」(「動作主」は制御可能な行為を行う主体, 或いは制御可能な心理状態及び思考活動を行う意志を有する主体である)と述べ, 動作主を生命体に限定する。しかし, 邓守信 1984: 75 は, 動作主を「+有生」の意味特徴から規定する観点を明確に否定し, “风(風)、大水(洪水)”等の非生命体は外部の始動者がおらずとも, ある種の現象を発生させることが可能であると述べている。このような理由から, 邓守信 1984: 76 は「+有生」の意味特徴ではなく, 「+能力」(potent)から動作主を規定すべきであり, “风、大水”のような非生命体は, 少なくともそれらに固有の活動範囲内では, 生命体の動作主と同等に見なすことができると主張している。また, 范晓 2008: 7 も「“客机、洪水、狂风、门坎儿、风”不是生命体, 但自然力量或人造工具本身也有某种施动力」(「旅客機、洪水、狂風、敷居、風」は生命体ではないが, 自然の力や人工の道具にも本来何らかの動作主性がある)と指摘している。马洪海 1999, 陈昌来 2003 等もこれらの研究

と同様、自然の力を動作主に含めている。

このように、自然の力は自らその現象を発生させ、自ら移動可能な移動主体として捉えることが可能である。また、自然の力は外部の力も必要としない。自然の力の移動は無意志的であるが、[+自発的移動]という移動主体の意味特徴が V_dD_d 型の使用を許容していると考えられる。

3.2.2. 移動機能を備えた事物

先の考察では、自然の力に[+自発的移動]という意味特徴を認めたが、他にも自ら移動すると捉えられ易いものに“电梯（エレベーター）、气球（風船）、风筝（風）”等があり、これらの移動主体も V_dD_d 型を排除しない。まず、エレベーターは3.2節で見た乗り物のケースと似ており、人間がエレベーターの中で操作を行うこともあるが、エレベーターそのものに駆動装置が装備されているため、外部から操作を行うことも可能である。

(21) 她的橐橐的高跟皮鞋声随着电梯下去的吱吱声消逝了不久，梅佐贤笑嘻嘻的长方型的脸庞出现在徐总经理的面前了。（彼女のコツコツというハイヒールの音がエレベーターの降下するギーギーという音とともに消えてまもなくすると、梅佐賢が長方形の顔をにこにこさせて徐社長の目の前に現れた。）（周而复《上海的早晨》）

(22) 因为已经过了下班时间，电梯很空，姚杰一按电梯，就上来了。（既に退勤時間を過ぎていたので、エレベーターは空いていて、姚傑がエレベーターのボタンを押すとすぐ上がってきた。）（<http://yc.qukanshu.com/files/article/html/11476/415250.html>）

(22)で示されるように、エレベーターは昇降ボタンを押せば、通常（故障等の原因がない限り）自動的に移動するものである。このような状況は、(23)のように、有情物が他者からの言語的な働きかけに応じて移動するという状況に近似している。

(23) 他又叫我，我下来。（彼がまた私を呼んだので、下りてきた。）（《读书》）

このように、駆動装置を備えたエレベーターは、意志を有し自発的に移動を行う人間のように捉えられていると考えられる。エレベーターが移動主体となる場合も、フリーコンテキストで V_dD_d 型を用いることができる。

(24) 电梯上去了。（エレベーターが上がっていった。）
电梯下来了。（エレベーターが降りてきた。）

エレベーターが移動機能を備えているように、以下に挙げる“气球（風船）、风筝（風）”も元来移動を目的として設計されている。

- (25) 可是这欢喜是空的，像小孩子放的气球，上去不到几尺，便爆烈归于乌有，只留下忽忽若失的无名怅惘。（しかしこの喜びも空虚なもので，子どもが放った風船のように，上昇して何尺にも満たないところで割れて無に帰し，いわれのない茫然とした喪失感だけが残った。）（钱钟书《围城》）
- (26) 一撒线，风筝就上去了。（糸を放すと，風はたちまち揚がっていった。）（《现汉词典》）

風船はゴムの中にヘリウムを入れて膨らませた玩具であり，ヘリウムは空気よりも軽いいため，自ずと上昇していく。風は風を利用して空中に揚げる玩具であり，一定の条件の下では，上方へ移動していくものと見なせる。このように，移動機能を備えた事物の移動では， V_dD_d 型が許容される。

3.2.3. 涙・汗

涙や汗¹⁶⁾の移動にも V_dD_d 型が用いられることがある。涙・汗の移動では，方向動詞或いは方向補語“出”，“下”を用いた表現が多く観察される。以下では，次の例のように，涙・汗が主語位置に現れる場合に限定して考察を行う¹⁷⁾。

【 V_dD_d 型】

- (27) “哎，看我多傻，不知不觉泪就出来了。[……]”（ああ，私はなんて馬鹿なんだろう。勝手に涙が出てきた。[……]）（冯德英《苦菜花》）
- (28) 于观汗立刻下来了，忙示意杨重制止“市委领导同志”，那人看到于观向杨重小声递话，笑咪咪地问，[……]（于観は急に汗が流れてきた。慌てて楊重に「市委委員会幹部」の話を制止するよう合図したが，その人は于観が楊重に小声で話しているのを見て，にこにこ笑いながら尋ねた。[……]）（王朔《顽主》）

【VD 型】

- (29) 王东海听着心里一阵酸痛，眼泪涌出来了。（王東海は聞いているうちに胸が痛くなり，涙がどっと溢れ出た。）（冯德英《苦菜花》）
- (30) 豆大的汗珠流下来滴在军服上。（豆粒大の汗が流れて軍服の上に滴り落ちた。）（《人民日报》1994）

3.2.3.1. 涙

まず，涙の移動について，《北京大学汉语语言学研究现代汉语语料库》を用いて“泪”と“出”の間の空白を3文字に設定し検索を行った結果， V_dD_d 型を用いた用例が23例，VD型は201例見つかった。“泪”と“下”の場合では， V_dD_d 型が61例¹⁸⁾，VD型が255例であった。涙の移動を表す場合でもVD型の方が圧倒的に優勢ではあるが，両枠付けパターンに生起する「涙」には連体修飾語の有無において差異が観察される。また， V_dD_d 或いはVDの前に強調の意

味を表す副詞が生起するか否かという点においても違いが見られる。

まず、連体修飾語の有無について、 $V_d D_d$ 型で涙の移動が表される場合、移動主体である「涙」は多く連体修飾語を伴わない裸の形式で生起する。

- (31) 胡亦大笑起来，笑得十分厉害，眼泪都出来了。(胡亦是大笑いしだした。笑いすぎて、涙まで出てきた。) (王朔《一半是火焰，一半是海水》)
- (32) 家珍听了点着头，眼泪却下来了。(家珍はそれを聞いて頷きながらも、涙を流した。) (余华《活着》)

V_d “出”と共起する場合、収集した例文 21 例のうち、19 例における「涙」が連体修飾語を伴わない裸の形式で現れ、他の 2 例は領属性の連体修飾語を伴うものであった。 V_d が“下”の場合では、裸の形式が 44 例、連体修飾語を伴ったものが 17 例であった。

- (33) [...] 徐厂长的嗓子像破锣，沙沙地很刺耳，但他一开口，江雪的眼泪就出来了。
([...] 徐工場長の声は壊れた銅鑼のようで、しわがれ声が耳についたが、彼が歌いだした途端、江雪は涙を流した。) (刘醒龙《孔雀绿》)
- (34) 我的眼泪又下来了，我伤心地抽泣起来。(私の涙はまた流れてきた。私は悲しくて泣きじゃくった。) (余华《在细雨中呼喊》)

一方、 VD 型が使用される場合、「涙」はより描写的な連体修飾語を伴うことも多い。

- (35) 都是自己不好，他举起沉沉的腿，更重更大颗的泪珠跌落下来，跌个粉碎。(全て自分が悪いのだ。彼は重い足を挙げると、更に重い大粒の涙がこぼれ落ちて飛び散った。) (《人民日报》1995)
- (36) 终于，谭永坚一行热泪滚了出来：[...] (ついに、譚永堅は一筋の熱い涙をこぼした [...]) (《人民日报》1996)
- (37) 当林青霞苏醒过来，看到守护在病床前憔悴的秦汉，一串无法抑制的清泪冲出眼眶，淌在光洁苍白的脸颊上，[...]。(林青霞は息を吹き返した時、ベッドの脇に憔悴した秦汉がいるのに気づき、数珠のような抑えることのできない清らかな涙が眼の縁から堰を切ってあふれ、なめらかな青白い頬を伝った [...]) (《读者（合订本）》)

上掲の(35)では、“更重更大颗的”(更に重い大粒の)という連体修飾語が涙の形状をつぶさに描写している。また、(36)、(37)の「涙」はそれぞれ“一行”(一筋の)、“一串”(ひとつながりの)という数量詞を伴っており、これらの数量詞は涙が一続きに連なって流れる様子や、数珠のように次々と溢れる様を生き生きと描写している。この現象については、杉村 2000 が示唆的で

ある。

- (38) 一个戴眼镜儿的、高而瘦的男同志迈着沉重的步子走进来。随着他，序来一个勤务员，给他们倒水。(眼鏡をかけた、背が高く瘦せた男が重い足取りで(歩いて)入って来た。彼の後に続いて従業員がやって来て、彼らに水をついだ。)
- (39) 一位非常妖娇的女士富有弹性地走进来。“你好！”她目空一切地打招呼。(とても妖艶な女性が弾んだ足取りで(歩いて)入って来た。「こんにちは！」彼女は傲慢な様子で挨拶をした。)(以上、杉村 2000: 160)

杉村 2000: 160 は(38), (39)について, 「“迈着沉重的步子” “富有弹性地” ……」と歩行の様子を描いた修飾語を用いた以上, それに対応してそれをうけるべき歩行の動詞があってしかるべきだと考えるのである」と述べている¹⁹⁾。以上は連用修飾語と述語動詞のケースであるが, この現象は(35)から(37)における連体修飾語と述語動詞の間にも平行して観察される。即ち, 移動主体である涙の描写性が高くなれば, これに応じて様態を描写する述語動詞が生起し易くなると考えられるのである。これに対し, V_dD_d 型では「涙」が描写性に富んだ連体修飾語を伴うことが少ない。よって, V_dD_d 型は「涙が出た」, 「涙が流れた」という事実を叙述することに重点があると考えられる。

次に, 副詞との共起について考えてみたい。 V_dD_d 型で涙の移動が表現される場合, V_d の前には強調を表す副詞“也, 都”が現れることが多い。

- (40) 我好似受了侮辱, 眼泪都要出来了! (私はどうやら侮辱されたようだ。涙まで出てきそうだ!) (《读者(合订本)》)
- (41) 越说越气, 泪都下来了, “啊, 说呀?!” (言えは言うほど腹が立ち, 涙まで流れてきた。「ほら, 言ってみなさいよ?!」)(王海鸰《中国式离婚》)

《现代汉语词典第6版》によると, 副詞“也, 都”はそれぞれ“表示强调”(強調を表す), “表示‘甚至’”(「～さえ/～すら」という意味を表す)というように強調の意味を表す。また, 李泰洙 2004: 62 によると, 「X + 也 / 都 + VP」が強調の意味を表す場合, “也, 都”はいずれも前方の X を極端な値とした序列を活性化させるという。このことから, V_dD_d 型は涙の移動を極端な事例として提示し, 誇張を含んだ語気で表現する傾向があるといえる。先の考察とあわせて考えると, V_dD_d 型は「涙」の移動を, 誇張を込めて主観的に述べる場合に特化して使用されるのではないかと考えられる。

3.2.3.2. 汗

汗の移動でも, V_dD_d 型では「汗」が連体修飾語を伴わないことが多い。しかし, 「汗」の所在

を示す連体修飾語を伴うケースは比較的多く見受けられる。(42)では「汗」が裸の形式で生起し、(43)では「汗」がその所在を示す連体修飾語を伴っている。

- (42) 像所有的修表摊一样，我的那个摊子是座玻璃匣子，可以推着走，因为温室效应，坐在里面很热，汗出得很多，然后就想喝水。(あらゆる時計修理店と同様、私のその店はガラス張りの四角い造りで、推して歩けるようになっている。温室効果で中にいると暑く、汗がたくさん出て、水が飲みたくなる。)(王小波《2015》)
- (43) 范骡子在乡一级的干部里也算是个人物，可他却是第一次进这么好的地方，走着走着头上的汗就下来了。(范のラバは郷の一級幹部の中でもなかなかの人物であるが、彼は初めてそのような立派な場所に入ったので、歩いているうちに額の汗が流れてきた。)(李佩甫《羊的门》)

涙の移動であれば、涙の出所は目に限定されるが、汗は全身の様々な部位から出る可能性がある。汗の所在を示す連体修飾語の生起が多くなると考えられる。また、「汗」が数量詞を伴う場合は、汗の流れた期間や汗の出た回数・量を表すことが多いようである。

- (44) 冬天，工人们干活一阵大汗下来，工作服冻得硬梆梆的。(冬、労働者たちは働いて大量の汗をひとしきり流し、作業服がカチカチに凍った。)(《人民日报》1993)
- (45) 这两身冷汗一出，汪体内的元气早已损伤十之八九，待到醒来，已经躺在日本驻南京的陆军医院里了。(こうやって2回にわたり全身から冷や汗が出たため、汪の体内のエネルギーは十中八九損なわれ、気付いた時には、既に日本駐南京陸軍病院にいた。)(《读者(合订本)》)

3.2.4. ことばの類

最後に、「ことば」が移動主体となるケースについて考察を行う。 $V_d D_d$ 型で「ことば」の移動が表現される場合、ことばの移動は新たな展開を引き起こす起因となることが多い。この場合、ことばの移動に後続して、ことばの移動によって引き起こされた新たな事態が述べられる。

- (46) 第三位也不服输：“我家汽车的后座还有一口油井呢！所以我的汽车永远不需要加油。”这最后一句话一出，引得我们四个人都笑了，因为最后这个人终于把牛吹“爆”了。(三人目も負けじと言った。「俺の家の車の後部座席には油田があるんだ！だから俺の車は永久にガソリンを入れなくていいんだ。」この最後の一言が出てきた途端、我々4人は皆笑った。何故なら、最後の人はついに「大」ぼらを吹いたからだ。)(《读者(合订本)》)

(46)では、“这最后一句话”(この最後の一言)の移動によって、“我们四个人都笑了”(我々4人は皆笑った)という新たな事態が引き起こされたことが述べられている。ことばの移動は、話し手にとって望ましいと考えられるプラスの事態を引き起こす場合もあるが、更に多いのは、ことばの移動がマイナス事態を引き起こす場合である。次の例を見られたい。

- (47) 我老家村上的张大爷早年丧妻，因怕两个未成年的子女受后娘的气，加之家境贫寒，一直未敢续弦，自己一个人一把屎一把尿地把两个孩子抚养成人，成家立业。这时，张大爷已是两鬓染霜，精疲力竭，在家孤单一人，很想找个老伴，安度晚年。没想到这话一出口，就遭到儿女的强烈反对。(私の田舎の村の張というおじいさんは早くに奥さんを亡くしましたが、まだ未成年の2人の子どもが後妻にいじめられてはいけなと思ったのと、加えて貧しかったので、ずっと再婚していませんでした。一人で苦勞して2人の子どもを成人させ、結婚させ独立させました。その頃には、おじいさんのみあげも白くなり、精根尽き果てて家で一人寂しく暮らしていたので、連れ合いを見つけて平穩な晩年を送りたいと強く思うようになったのです。しかし思いがけないことに、このことを口にしたところ、子どもたちに強く反対されてしまったのです。) (《人民日报》1996)

(47)の文脈から、「張というおじいさん」は子どもたちが独立した今なら、伴侶を得て平穩な老後生活を送ることに誰も反対しないだろうと考えたことが推察される。従って、(47)における「ことば」は、話し手の管轄内においてはマイナス作用をもたないものである。更に、話し手は聞き手の賛成を得られるであろうという期待をもって発話を行ったはずであるが、現実には当該の発話が「子どもたちの強い反対に遭う」というマイナス事態を引き起こしたため、話し手の期待値とマイナス事態の間に誤差が生じ、意外性が生じることになる。この意外性は文中の“没想到”(思いがけず)からも読み取れる。

このように、ことばの移動によって引き起こされる新事態は意外性を伴うことが多い。

- (48) 石大爷走到扩音器前，他的面部仍然看不出有什么明显的表情，只听他用家常谈心般的口气说：“共产党从来没亏待过我呀。”这句话一出来，使台上台下的人都有点意外，特别是他说完这句话以后，把头转向了几乎被大铁饼坠得昏倒的老曹，台下的群众就更为之一震了。(石おじさんは拡声器の前にやってきたが、彼の顔には依然としてはっきりとした表情が見られなかった。彼はただ普段通りの穏やかな口調で言った。「これまで共産党からひどい扱いを受けたことはありませんよ。」このことばが出てきた途端、壇上の人でも下にいる人も少し意外に感じた。特に、彼がこのことばを言い終わった後、大きな円盤の重みで失神寸前の曹さんの方に顔を向けた時、壇の下の群衆は更に驚いた。) (刘心武《如意》)

ここでは、“石大爷”（石おじさん）のことばに対し、聴衆が意外性を感じたことが述べられているが、時にはことばを発した話し手自身が、そのことばに対し意外性を感じたり、その発話を後悔することがある。

- (49) 有位记者问：“手术过后，现在你最想得到什么？”“实话告诉你，我现在非常想要一杯啤酒！”话一出口，连她自己都惊奇不已。因为在手术前，她从来就不喜欢喝啤酒。
 （ある記者が尋ねた。「手術が終わって、今あなたが一番ほしいものは何ですか。」「実を言うと、今とてもビールが飲みたいんです！」ことばが口を出た時，彼女自身も意外に感じて仕方なかった。何故なら手術前、彼女はずっとビールが好きではなかったからだ。）（《读者（合订本）》）
- (50) “这土蓝布你是从哪里弄到的？”话一出口，我就后悔了。为什么问这个？我要说的，可不是这个啊！（「この藍色の木綿はどこで手に入れたのですか。」ことばが口を出た瞬間，俺は後悔した。何故こんなことを尋ねたのだろう。俺が言いたかったのは、こんなことではなかったのに！）（戴厚英《人啊，人！》）

以上の現象から、ことばの移動に V_dD_d 型が用いられる場合、移動主体となることばは自由に移動するものとして捉えられる。そのため、話し手の制御が及ばず、予期せぬ意外な事態を引き起こし、ひいては話し手自身でさえことばの移動に意表を突かれたり、その発話を後悔することになる。このように、 V_dD_d 型の移動主体となることばにも「+自発的移動」という意味特徴を見出すことができる。

3.3. V_dD_d 型猝付けパターンの使用が難しいケース

以上、 V_dD_d 型が用いられ易いケースを自然の力、移動機能を備えた事物、涙・汗、ことばの類に分けて考察した。これらの移動主体は自由に移動するものと捉えられ易く、移動主体の「+自発的移動」という意味特徴が V_dD_d 型の使用を支えていると考えられる。

ここでは動作主性の角度から、これらの移動主体を再度分析してみたい。張伯江 2002: 489 は、動作主を要求する構文の 1 つに、使役性の兼語文「 $S + V_{\text{cause}} + A + V_{\text{do}}$ 」²⁰⁾ を挙げている。この構文は語用論的に規定される以下のような意味を含み、A の位置は強制的に動作主を要求するとされる。

- (51) S 相信 A 有执行 S 的意愿的能力，即 A 有操作事件发生的能力。（S は A が S の願望を実現する能力をもつ、と信じている。即ち、A はイベントの発生を制御する能力をもつ。）（張伯江 2002: 489）

従って、イベントの発生を制御する能力をもたないものは、A の位置に立つことが困難となる。

次の例を見られたい。

- (52) *我让微波炉热剩饭。(私は電子レンジに残飯を温めさせる。)(張伯江 2002: 490)

この現象を移動イベントに適用すると、A に立つことのできる移動主体は、往々にしてその移動の発生を自ら制御できると見なされるものであり、これは「+自発的移動」の意味特徴に相当すると思われる。現に、先に考察した移動主体はほとんどがAの位置に生起する²¹⁾。

- (53) 他上了一个土堆，两条胳膊向前平伸，让风吹进袖筒。(彼は土山に登ると、両腕を前方に真っ直ぐ伸ばし、風が袖の中に入ってくるようにした。)(杜鹏程《保卫延安》)
- (54) 你让电梯上去吧。(エレベーターを上をいかせて。)
- (55) 你松手让气球飞上去吧。(手を放して風船を飛ばして。)
- (56) 你撒线让风筝飞上去吧。(糸を放して風を飛ばして。)
- (57) 邓大姐越说，我的泪越止不住，当时我根本无法控制感情，当着亲人的面，让泪流出来心里才会舒服，情绪才平稳。(鄧姉さんが言えば言うほど私の涙は止まらなくなり、その時私は感情をコントロールすることが全くできず、身内の前で涙を流すことによってようやく楽になり、気持ちもやっと落ち着いた。)(牛国锋《邢燕子的昨天和今天》)
- (58) 只是他坐在那空空的场子中间，自己捧下自己的尖帽，让汗自由地淌下来，让泪自由地淌下来，冲淡了脸上的朱白，他顿时感觉到空虚，寂寞，真的感到自己的衰老。(ただ彼だけが何もない広場の中央に座り、自分で三角ハットを取り、あるがままに汗を流し，あるがままに涙を流した。顔に塗った赤と白のメイクが薄くなり、彼はにわかに虚しさと寂しさを感じ、自分の老いを痛切に感じた。)(靳以《老丑角》)

(53)の波線部は、自発的に移動する移動主体の移動を誘導すると理解され、(54)から(58)の波線部は、自発的に移動する移動主体の移動を妨げないという意味に解釈できる。

それでは逆に、 $V_d D_d$ 型の使用が難しい移動主体とはどのようなものであろうか。その1つは本来的に静止している物体である。例えば、ある位置に固定された置時計等はAの位置に立つことが不可能であり、同時に $V_d D_d$ 型を用いてその移動を表現することも不可能である。

- (59) *你让钟掉下去吧。
- (60) *钟 \square 来了。

また、下の例では“钟”(置時計)が使役性の兼語文のAの位置に生起しているが、これはコンテキストからもわかる通り、置時計が自動的に動く(移動する)ようあらかじめ何らかの仕掛

けがなされているからである。この場合、本来的には静止している物体であっても、エレベーター等の駆動装置を備えた移動主体と同等の能力を獲得することになる。

- (61) 如果想给对方一个坏兆头，你可以安排一下，在重要关头让钟从上掉下来，或让窗户恐怖的打开，这需要花些功夫，但完全值得，你无法想象人有多么迷信。（もし相手に悪い兆候を感じさせたいのなら，ちょっと準備をすればいい。いざという時に置時計を落としたり，または窓を不気味な感じで開けたり。これは少し時間と工夫が必要だが，本当にやってみる価値がある。人間というのは本当に迷信深いのである。）（《哈佛经理领导权力》）

また当然ながら、移動主体が有情物であっても、その移動が無意志である場合は V_dD_d 型が容認されない。

- (62) *他不小心从屋顶上下来了。（「彼は不注意で屋根から落ちた。」の意味で）

3.4. V_dD_d 型梓付けパターンと構文的特徴

ここでは、 V_dD_d 型が生起する構文の特徴について考察を行う。 V_dD_d 型は対拳形式、四字形式に用いられ易く、これは両形式が表現の簡潔性を要求することに起因する。また、本来は V_dD_d 型の使用が難しいケースであっても、擬人法（personification）により、 V_dD_d 型の使用が可能となる場合がある。以下では、 V_dD_d 型を要求する対拳形式と四字形式、 V_dD_d 型の使用を可能にする擬人法について考察していく。

3.4.1. 対拳形式

対拳形式²²⁾によって、 V_dD_d 型の使用が許容される場合がある。

- (63) 看来她对我的那些鬼话，也学会了左耳进，右耳出。（どうやら彼女は私のでたらめな話に関しては，聞き流すということを感じたようだ。）（王朔《空中小姐》）
- (64) 有一件事我始终想知道：身为二十世纪后半期的人，身披铠甲上阵与人交战，白刀子进红刀子出，自我感觉如何？（ずっと知りたかったことがある。20 世紀後半を生きた人々は，鎧をまとって戦場に赴き戦いを交え，血で血を洗う争いをし，どのような気持ちだったのだろうか。）（王小波《积极的结论 1》）

鈴木 2003: 231 によれば、対拳形式には字義通りの意味（literal meaning）に解されるものと、字義以上の意味に解され得るものがあるという。上掲の例で言えば、(63) の対拳形式はでたらめな話が「左耳から入って右耳から出る」ことから、対拳形式全体で「聞き流す」という意味を表

し、字義以上の意味をもつ。同様に(64)は、「白い刀が入り、赤い刀が出てくる」ことから、「血で血を洗う争いをする」という意味になる。

更に、対拳形式は非適格な表現形式や、習慣上成立しないとされる表現形式にも利用され、このような言語表現を成立させるという（鈴木 2001: 182）。(63)、(64)において、対拳形式の構成要素である“左耳进”，“右耳出”，“白刀子进”，“红刀子出”はいずれも単独では成立しない。少なくとも“从左耳传进来”（左耳から（伝わって）入ってくる）や“白刀子捅/扎/戳进去”（白い刀が突き刺さる）のように、前置詞“从”を伴ったり、述語動詞や直示方向補語“来/去”の生起が要求される。しかし、対拳形式ではこれらの成分が捨象され、方向動詞 V_d のみを用いるという最もシンプルな形で「でたらめな話」や「刀」の移動が簡潔に表現される。

このように、対拳形式が簡潔な構造をとることについて、鈴木 2001: 194 は、「事態のどの部分が注意を引き付け前景化されているのか、焦点の所在を明確にするためである」と説明している。例えば、(63)で対拳形式が「聞き流す」という全体的意味を簡潔に表現するために肝要なのは、「左耳から入った話がすぐさま右耳から出る」という移動の部分であり、その話が「どのように移動するか」といった付随的な情報（移動の様態等）は必要ないわけである。また、(64)の“白刀子进红刀子出”では、移動前には白かった刀が移動後に赤く染まっていることや、刀の移動先が人体であることは文脈から明白である。ここでも V_d “进”，“出”を用い、刀の変化を簡潔に描写することで「血で血を洗う争い」が表現されている。

以上の考察から、対拳形式のように構造の簡素化を要求する形式においては、VD 型ではなく、 $V_d D_d$ 型が使用されることがわかる。

3.4.2. 四字形式

簡潔性という点においては、四字形式も限られた字数で豊富な情報を簡潔かつ明確に伝える機能を有する。よって、四字形式では無意志的な自律移動が V_d によって表現される。

- (65) 那一年那一天，风过树动，枝上落下白蛾般的花瓣。（その年のその日，風が通り過ぎて木が揺れ，枝から白い蛾のような花びらが散った。）（刘心武《小墩子》）

上の用例の“风过树动”では、「風が通り過ぎて木が揺れる」のように、わずか4文字で因果関係によって結ばれる2つのイベントが表されている。“风”（風）の移動は、 V_d のみを用いた最も簡素な形式で表現されている。また、以下の例のように、比喩を内包した四字形式も多く見受けられる。比喩表現は、類似した事象を簡潔にわかり易く、生き生きと伝達することが求められる。

- (66) 后来他用木刻刀使劲捅了一下，这才 血出如注，写这封三张纸的血书，他在手指上共捅了三次……（その後、彼は彫刻刀を思いきり突き刺し、これようやく 血が飛沫

のように出た。この3枚の血書を書くのに、彼は手の指を計3回突き刺した…）（肖华《我和张艺谋的友谊与爱情——〈往事悠悠〉连载之十一》）

以上、 V_dD_d 型は、対挙形式や四字形式が要求する簡潔性を満たすために用いられるといえる。これらの形式では、VD型のVが表すような付随情報は情報価値が低い上に、表現の繁雑性を招くため用いられない。このように、表現の簡潔性が V_dD_d 型の使用を支持しているケースもある。

3.4.3. 擬人法

最後に、擬人法によって無意志的な自律移動の言語化に V_dD_d 型が用いられるケースを考察したい。

- (67) 后来她的目光从门口进来了，一直来到他脸上。她那么看了一会后朝他走来。她一直走到他身旁，她皱着眉头看着他，似乎是在看着一件叫她烦恼的事。而后她才说：“你把我丈夫杀了。”（その後、彼女の視線がドアから入ってきて、まっすぐ彼の顔のあたりまでやってきた。彼女はこうにしばらく見つめた後、彼の方に向かって歩いてきた。彼女はまっすぐ彼のそばまできて、何か彼女を悩ませる事を見るかのように、眉間に皺を寄せて彼を見ていた。その後、彼女はようやく口を開いた。『あなたが私の夫を殺したのよ。』）（余华《现实一种》）

瀬戸 1997: 86 によると、擬人法は「人間以外のものを人間に見立てて表現する技法」である。既述の通り、 V_dD_d 型は意志的な自律移動イベントの言語化に多用される枠付けパターンであり、当該移動イベントの典型的な移動主体は人間や動物であった。上の例における“她的目光从门口进来了”（彼女の視線がドアから入ってきた）は単独で見れば不自然であり、常用される表現ではない。しかし、ここでは V_dD_d 型を用いて“她的目光”（彼女の視線）を人間に見立てることによって、“她的目光”があたかも人間のようにドアから入ってきて、「彼」の眼前に迫りくるという描写効果を獲得しているのである。このように、擬人法を用いることによって²³⁾、「彼女」が「彼」のことを恨みや疑惑の眼差しでじっと見つめていたことが効果的に表現されていると考えられる。

4. まとめ

以上、本稿では類型論的視点を交えて、無意志的な自律移動イベントを表す2つの枠付けパターンについて考察を行った。当該移動イベントの言語化には、[述語動詞+方向補語]からなるVD型枠付けパターンと、[方向動詞+直示方向補語]からなる V_dD_d 型枠付けパターンが使用される。本稿では両枠付けパターンの使用状況を調査し、その結果、VD型が全体の約77%を占

め、 V_dD_d 型は約 23% を占めるという数値を示した。

V_dD_d 型は有標の枠付けパターンであり、自然の力、移動機能を備えた事物、涙・汗、ことばの類といった事物が移動主体となる。意味論的に見た場合、これらの移動主体に共通する「+ 自発的移動」の意味特徴が V_dD_d 型の使用を支えていると考えられる。

構文的な特徴として、表現の簡潔性を要求する対挙形式や四字形式では V_dD_d 型が多用される。また、擬人法によって、無意志的な自律移動の言語化に V_dD_d 型が用いられることもある。

なお、本稿では VD 型と V_dD_d 型の使用を分ける弁別的な要因を明確に示すには至らなかった。しかし本稿で一連の考察から、両枠付けパターンは機能を全く別にする対立関係にあるというより、むしろ VD 型が V_dD_d 型を包摂する関係にあることが示唆される。即ち、 V_dD_d 型枠付けパターンは VD 型枠付けパターンの機能の一部を特化して担っていると考えられるが、この点については今後更なる全面的な考察を行いたい。

注

- 1) 下記の用例のように、方向動詞が場所名詞を伴う場合や“一”に後置する場合、直示方向補語が現れないことがあるが、表記上は一律「 V_dD_d 型」とする。

到傍晚时分，大群青年男女们站在村西头，眼巴巴地看见太阳下山，渐渐地沉入山后了。（夕時になると，大勢の青年男女が村の西の果てに立って，太陽が山に沈み，徐々に山の後ろへと沈んでいくのを今か今かと見ていた。）（王小波《歌仙》）

晚风一过，叶片的摩擦声更响，使人想起流动的涧水，从而进一步联想到逝去的岁月，而生出万千的思绪。（夜風が吹き抜けると，葉身の摩擦音が一層大きな音を立て，流動する谷の水を彷彿とさせる。更に過ぎ去った年月が連想され，様々な思いが起こる。）（刘心武《我爱每一片绿叶》）

- 2) 本稿では用例を掲載する際、必要に応じて移動主体を波線，述語動詞を囲み線，方向補語を下線で標記する。
- 3) 「意志的な自律移動」とは、以下の例のように、移動主体が自らの意志で遂行する移動を指す。
她指指小屋就走过去了。（彼女は小屋を指さすと歩いていった。）（杨沫《青春之歌》）
- 4) Talmy 2000 は、付随要素を「名詞補部または前置詞句補部以外で、動詞語根と姉妹関係に立つあらゆる構成素からなる文法カテゴリ」と定義する。具体的には、英語の動詞不変化詞（verb particles）や中国語の補語等を指す。
- 5) 柯理思 2003 の「有生の移動主体による移動」と「無生の移動主体による移動」は、大体において本稿の「意志的な自律移動」と「無意志的な自律移動」に相当する。
- 6) 例えば、ラマルル 2008 の会話データ（テレビドラマ）では、“回来”（戻ってくる）等の V_dD_d 型（＝ V 言語の枠付けパターン）の使用が全体の 93% を占めている。一方、文学作品では、 V_dD_d 型と“走回来”（歩いて戻ってくる）に代表される VD 型（＝ S 言語の枠付けパターン）の使用が半々を占めるという結果が報告されている。
- 7) 以下のような移動イベントを指す。

The rock slid/rolled/bounced down the hill.（岩石が丘の下に滑って / 転がって / 弾んでいった。）（Talmy 2000: 28）

- 8) 柯理思 2003 は無生の移動主体に「車」を含めているが、本稿は車等の乗り物の移動は人のコントロール下にあるため、「意志的な自律移動」であると考え。なお、乗り物の移動であつ

- でも、事故による落下等で移動が制御されないケースは「無意志的な自律移動」に含める。
- 9) 马云霞 2008: 23 も、無生の事物であっても、自ら移動すると見なされるものは方向動詞を用いて表現できるとし、“雨（雨）”，雪（雪），太阳（太陽），云（雲）”等の自然現象が典型的な移動主体に挙げられている。また，“车（車）”，球（ボール），水（水），血（血）”等も移動可能な物体であるが、これらの移動が自律的なものであるのか、それとも外部の作用によるものなのかは往々にして不明瞭であると指摘している。また杉村 2000: 157 は、サッカーやバスケットボールの実況放送で“球进了！”（ボールが入った！→ゴール！）という表現が用いられることを指摘している。
- 10) それぞれ、王朔の小説 575193 字、刘心武の小説 668982 字、王小波の小説 752546 字。
- 11) 《现代汉语词典第 6 版》には、“起”の（方向）動詞の意味として、“物体由下往上升”（物体が下から上へ上昇する）という意味項目が挙げられている。
 皮球不起了。（ゴムボールが跳ねなくなった。）
- 12) “下雨”（雨が降る），“下雪”（雪が降る）の類 23 例を含む。
- 13) “出汗”（汗が出る），“出血”（血が出る）の類 20 例を含む。
- 14) “起”からなる V_dD_d 型には、“起毛”（毛羽立つ）のような語彙項目，“此伏彼起”（一方が下火になれば他方が盛り上がる）のような四字成語しか観察されなかった。
- 15) しかし同時に、「The escape qualification ‘typically’ expresses my awareness that contexts which I will say require agents are sometimes occupied by ‘inanimate’ nouns like *robot* or ‘human institution’ nouns like *nation*. Since I know of no way of dealing with these matters at the moment, I shall just assume for all agents that they are ‘animate’.”（「典型的」という修飾を用いたのは、動作主が要求されるコンテキストにおいて、ロボットのような「無生」の名詞や、国家のような「人間による組織」を表す名詞が現れることがあるのを意識してのことである。現時点ではこれらの問題を処理する方法が思い浮かばないため、全ての動作主を「有生」のものと仮定するしかない。）（Fillmore 1968: 24）と述べている。これは即ち、動作主というカテゴリーが [+有生] という意味特徴で規定できるようなものではないことを示唆している。
- 16) 類似する現象として、「血」の移動もここに含めるべきではあるが、《北京大学汉语语言学研究中心现代汉语语料库》で“血”と“出”，“血”と“下”の間に 3 文字の空白を設け検索を行った結果、 V_dD_d 型を用いた用例はそれぞれ 18 例、2 例と極めて少なかった（これに対する VD 型はそれぞれ 70 例と 13 例）。また、血の移動に V_d “出”が用いられる場合、その大半（18 例中 16 例）が“鲜血喷涌而出”（鮮やかな血が噴き出る）のように、四字形式の形をとるものや四字成語であった。 V_d “下”の場合も、2 例のうち 1 例は“鲜血顺坡而下”（鮮血が坂道を流れる）という四字形式であった。このような状況から、本稿では「血」の移動を考察対象に含めない。なお、四字形式については 3.4.2 節で後述する。
- 17) 涙・汗は目的語の位置に生起することもあるが、本稿はこのようなケースを考察の対象に含めない。何故なら、涙・汗が V_d の目的語となり V_dD_d 型を構成する場合、 V_d と涙・汗は固定した、語彙的な結び付きであると考えられるからである。例えば、涙の場合、コーパスで“出”と“泪”の間に 3 文字の空白を設定して検索しても、涙が V_d “出”の目的語となる用例（ V_dD_d 型）は 4 例しか得られない（対する VD 型は 438 例）。一方、 V_d “下”と“泪”の場合は用例が 37 例見つかったが（対する VD 型は 942 例）、これは“下泪”（涙を流す・泣く）が語彙として存在するからであると考えられる（しかし、“下泪”は文語的な表現で、常用されるものではない）。
- 18) このうち、10 例に“泪下”という表現が見られたが、これも極めて文語的な表現である。
 所以每当传来朋辈谢世的噩耗，我就禁不住心酸，泪下！（なので、友人たちがこの世を去ったという訃報が伝わってくるたび、どうしてもなく悲しみが込み上げ、涙が流れるのだった！）（《读书》）

- 19) 任鷹 2000: 31-32 にも同様の指摘がある。
- 20) 使役性の兼語文の「V_{cause}」は一般に使役義を表す“让(～させる), 叫(～させる), 请(～するように頼む), 派(派遣する), 强迫(強いる)”等の動詞によって担われ, 「V_{do}」が表す動作は, 「V_{cause}」が表す動作によって引き起こされる(刘月华等 2001: 709 参照)。
- 21) しかし, 「太陽, 月, 星」といった天体の移動や, ことばの移動はこの限りではない。
- 22) 鈴木 2001: 196 によれば, 对举形式は「(一) 各構造形式の字数(音節数)が等しい又は近く, (二) 形式内部の文法関係が同じ又は似通った構造が, (三) 相互に文法上従属関係をもたないように, 二個以上並列された表現形式を指す」と定義される。
- 23) (67) は, 後続する文脈において“来”が用いられていることから, 擬人法であると考えるのが自然である。

参考文献

- 陈昌来『现代汉语语义平面问题研究』学林出版社 2003.
- 邓守信『汉语及物性关系的语意研究』台湾学生书局 1984.
- 范晓「关于“施事”」『汉语学习』第 2 期 2008. pp. 3-14.
- Fillmore, Charles J. 1968. “The case for case.” In Bach and Harms (Ed.) *Universals in Linguistic Theory*. New York: Holt, Rinehart, and Winston. 1-88. *Universals in Linguistic Theory*. (C. J. Fillmore 著, 胡明扬译「“格”辨」『语言学论丛』第 2 辑 1980. pp. 1-117.)
- 柯理思「汉语空间位移事件的语言表达——兼论述趋式的几个问题」『现代中国語研究』第 5 期 2003. pp. 1-18.
- 李泰洙「“也”“都”强调紧缩句研究」『语言研究』第 2 期 2004. pp. 60-64.
- 刘月华等『实用现代汉语语法(增订本)』商务印书馆 2001.
- 鲁川『汉语语法的意合网络』商务印书馆 2001.
- 马洪海「施事类型初探」『汉语学习』第 4 期 1999. pp. 20-23.
- 马云霞『汉语路径动词的演变与位移事件的表达』中央民族大学出版社 2008.
- ラマール・クリスティーン「中国語の位置変化文とヴォイス」生越直樹他編著『ヴォイスの対照研究：東アジア諸語からの視点』くろしお出版 2008. pp. 109-142.
- 任鷹『现代汉语非受事宾语句研究』社会科学文献出版社 2000.
- 瀬戸賢一『認識のレトリック』海鳴社 1997.
- 宋文辉「自动动结式的使动化」『语法研究和探索(十三)』2006. pp. 113-127.
- 『现代汉语动结式的认知研究』北京大学出版社 2007.
- 杉村博文「“走进来”について」『荒屋勸教授古希記念中国語論集』白帝社 2000. pp. 151-164.
- 鈴木慶夏「对举形式の意味とシンタクス」『中国語学』248 号 2001. pp. 182-198.
- 「現代中国語における文法範疇としての典型例示」『中国語学』250 号 2003. pp. 229-249.
- Talmy, Leonard. “Semantics and Syntax of Motion.” J. Kimball (ed.), *Syntax and semantics* 4. Academic Press. 1975. pp. 181-238.
- “Lexicalization patterns: Semantic structure in lexical forms.”, *Language typology and syntactic description Vol. III: Grammatical categories and the lexicon*. (ed.) Timothy Shopen. Cambridge University Press. 1985. pp. 57-149.
- “Path to Realization: a Typology of Event Conflation.” *Berkeley Linguistics Society* 17 1991. pp. 480-520. (タルミー著, 高尾享幸訳「イベント統合の類型論」坂原茂編『認知言語学の発展』ひつじ書房 2000. pp. 347-451.)
- Toward a cognitive semantics, vol II: Typology and process in concept structuring*. Cambridge, Mass.: MIT Press. 2000.

- 王珏「生命名词的语义种类及语法表现」徐烈炯・邵敬敏主编『汉语语法研究的新拓展（一）——21世纪首届现代汉语语法国际研讨会论文集』浙江教育出版社 2002.
- 张伯江「施事角色的语用属性」『中国语文』第6期 2002. pp. 483-494.
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编『现代汉语词典第6版』商务印书馆 2012.